

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月 17日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009～2011

課題番号：21251006

研究課題名（和文）地球化時代におけるアルタイ諸語の急速な変容・消滅に関する
総合的調査研究研究課題名（英文）Rapid changes and endangerment of the Altaic languages
in the global era

研究代表者

久保 智之（KUBO TOMOYUKI）

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：30214993

研究成果の概要（和文）：

アルタイ諸語と総称される「チュルク諸語、満洲・トゥングース諸語、モンゴル諸語」を対象として、急速に進む地球化（グローバル化）の中で、消滅しつつある言語、急速に変容しつつある言語に焦点をあてつつ、現地調査を行ない、それら言語の実相を記述した。論文や学会発表以外に、数点のまとまった記述を図書として公刊した。また、すでに文献言語となったウイグル語、満洲語の言語学的研究を行なった。

研究成果の概要（英文）：

The Altaic languages, including the Turkic, the Manchu-Tungusic, and the Mongolian languages, have been investigated with the special focus on the endangered languages, which are on the verge of language death. Several books, as well as a lot of papers, have been published to document those endangered languages.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	12,300,000	3,690,000	15,990,000
2010年度	13,000,000	3,900,000	16,900,000
2011年度	11,700,000	3,510,000	15,210,000
年度			
年度			
総計	37,000,000	11,100,000	48,100,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：アルタイ諸語、言語変容、言語接触

1. 研究開始当初の背景

本研究の準備的段階として過去3年間実施した「チュルク諸語の固有と外来に関する総合的調査研究」は、チュルク諸語を対象とした借用現象に関する研究であった。本研究は、それらの成果を取り入れつつ、より広範囲に、アルタイ諸語の類型論的、地域的特徴全体を見渡した、急速な言語変容に関する研究であった。

2. 研究の目的

本研究は、様々な言語特徴を共有するゆえに

「アルタイ諸語」と呼ばれる a. チュルク諸語、b. 満洲・トゥングース諸語、c. モンゴル諸語を対象とする。その中でも、急速に進む地球化（グローバル化）の中で、消滅しつつある言語、急速に変容しつつある言語に焦点をあてつつ、それら言語の実相を、記述言語学的、社会言語学的、歴史言語学的に総合的に記述することを目指した。

3. 研究の方法

アルタイ諸語の中の諸言語について、個別言語に見られる変容を、体系的に記述する。具

体的には、i. 音韻論（音の体系、母音や子音の音配列、アクセント・イントネーション等）、ii. 形態論（単語の構造）、iii. 統語論（文の構造）の観点から記述する。

また、諸言語の対照研究・比較研究を行ない、言語の変容・消滅に関する一般言語学的な理論の構築に貢献する。

4. 研究成果

個別言語の記述を中心としつつも、常に他の諸言語との対照研究・比較研究を基礎とした研究を行なった。具体的には、以下のとおりである：

- (1) 文献言語である満洲語と対照・比較しつつ、シベ語の文法の解明を行なった。音韻論・形態論の相当な部分が明らかとなった。具体的には、イントネーションに3種類がある（上昇調、下降調、中平調）ことを明らかにしたこと等である。成果として『シベ語の基礎』2巻を公刊した（児倉徳和・庄声との共著）。
- (2) ベルリンやペテルブルクのウイグル写本を研究すると共に、ウイグル漢字音体系をより精密に明らかにした。
- (3) トルコ語の指示詞の用法について詳細な記述を行なうと共に、ドイツのトルコ系移民の話すトルコ語について、ドイツ語との言語接触による指示詞の用法の変容に関する研究を行なった。
- (4) 中国の内モンゴルおよび北京でモンゴル語の文献資料調査を行ない、『元朝秘史』モンゴル語漢字音訳・傍訳漢語対照語彙』（2009）『蒙文総彙』—モンゴル語ローマ字転写配列—（2010）を公刊したほか、モンゴル系のダグル語の研究に基づき『達斡爾語詞彙』蒙古文語索引 附：満洲文語索引』（2011）を公刊した。
- (5) ロシア科学アカデミー東洋文献研究所にて20世紀初頭のエニセイ地方の北方諸言語に関連する資料を収集、研究した。特にロシア人研究者リュチコフによるドルガン語の記録に基づいて、ドルガン語形成期の言語変容を研究した。
- (6) チュルク語南西グループ（トルコ語、トルクメン語、カシュカイ語）およびカライム語等の危機言語を含む諸言語の文献調査と文法構造の分析をおこなった。また、トルコにおいて本科研の研究活動を含む日本のチュルク諸語研究の概要についての報告をした。また、『チュルク語南西グループの構造と記述—トルコ語の語形成と周辺言語の言語接触—』を公刊した。
- (7) キプチャク系のチュルク語口語に見られる他グループチュルク語の影響を調査した。トルコで話されているノガイ語に関して語以下のレベルでトルコ語からのどのような影響が見られるか調査し、動詞のボイスを表す形式についてはトルコ語の形式が優勢に

なり、キプチャク語的形式が廃形式になりつつあることを明らかにした。ウルムチで話されているカザフ語に関しては、若年層に見られるウイグル語からの影響を調べたが、特筆すべき影響は見られず、キプチャク語的形式が保たれていることを確認した。

(8) 14-15世紀における中期チュルク語とペルシア語との関係に注目して研究を行なった。具体的には、ペルシア語作品を原作とする『フスラウとシーリーン』、『グルとナウローズ』および『神秘の宝庫』を取りあげ、それぞれの原作との比較や、『グルとナウローズ』の作者の問題などを検討した。また、イスタンブールおよびタシュケントの研究者たちと研究状況に関する情報を交換した。

(9) キルギス語、ウズベク語などを対象に、態や人称に関わる動詞接尾辞の意味用法の調査研究を行なった。また、中期モンゴル語の動詞接辞の文法研究を行なった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計34件）

1. Kubo, Tomoyuki and Nuriyā Sabit, “Lateral Dissimilation in Modern Uyghur”, 『ことばとこころの探求』（開拓社）, 94-105, 2012年, 査読有り, DOIコード及びURL無し。
2. 栗林 均, 「近代モンゴル語辞典の成立過程—清文鑑から『蒙漢字典』へ」, 『東北アジア研究』第16号, 127-147, 2012年, 査読有り, DOIコード無し, <http://hdl.handle.net/10097/53691>
3. 栗林 裕, 「チュルク諸語動詞の形態的派生の方向性について」, 『チュルク諸語研究の Scope』（溪水社）, 5-20, 2012年, 査読有り, DOIコード及びURL無し。
4. Kuribayashi, Y. and Z. Gençer, “Japonlara Türkçe Dilbilgisi Öğretirken Karşılaşılan Sorunlar Üzerine”, *4. Uluslararası Türkçenin Eğitimi-Öğretimi Kurultayı*, 305-312, 2012年, 査読有り, DOIコード及びURL無し。
5. 大崎紀子, 「チュルク語動詞受動形の受動以外の用法について—キルギス語類義語動詞の意味用法の比較から—」, 『チュルク諸語研究の Scope』（溪水社）, 21-40, 2012年, 査読有り, DOIコード及びURL無し。
6. Kubo, Tomoyuki, “Sibe Intonation”, *Proceedings of the 10th Seoul International Altaistic Conference — Reexaminations of objects and methods of research into the Altaic languages and cultures*, 89-98, 2011年, 査読有り, DOIコード及びURL無し。
7. 久保智之, 「現代ウイグル語における側面音の異化に関する覚え書き」, 『九州大学

- 言語学論集』第32号, 281-290, 2011年, 査読無し, DOIコード無し,
http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/~linguist/kupl/doc/KUPL32_Kubo.pdf
8. Shogaito, Masahiro, “Interlinear characters based on the phonological system of IUPC”, CSEL 17号, 1-17, 2011年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
 9. 庄垣内 正弘, 「ウイグル漢字音と漢文訓読」『日・韓訓読シンポジウム』(平成21年～平成23年開催報告書, 麗澤大学), 199-211, 2011年, 査読無し, DOIコード及びURL無し.
 10. Shogaito, Masahiro, “Two fragments of Chinese *Mañjusrinamasaṅgīti* transcribed into Uighur Script – Dx12082 and Dx12114 preserved in St. Petersburg”, *Тангуты в Центральной Азии – Сборник статей в честь 80-летия профессора Е. И. Кычанова (Tangut in pre-Mongol Age: Festschrift for the 80th Birthday of Professor Evgeniy Kychanov)* モスクワ, 375-382, 2011年. 査読無し, DOIコード及びURL無し.
 11. 林 徹, 「アジアにおけるラテン文字化: アラビア文字からラテン文字へ」, 『世界の文字を楽しむ小事典』(大修館書店), 134-140, 2011年, 査読無し, DOIコード及びURL無し.
 12. 林 徹, 「文字改革: トルコの場合」, 『世界の文字を楽しむ小事典』(大修館書店), 172-177, 2011年, 査読無し, DOIコード及びURL無し.
 13. 林 徹, 「国際音声記号 (IPA) は何を表しているか?: 文字で音を再現する試み」, 『世界の文字を楽しむ小事典』(大修館書店), 129, 2011年, 査読無し, DOIコード及びURL無し.
 14. 藤代 節, 「ルイチコフ資料にみるドルガン語とドルガン族形成」, CSEL 17号, 175-214, 2011年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
 15. Kuribayashi, Y., “Turkological studies in Japan: Past and Present”, *Orhon Yazıtlarının Bulunuşundan 120 Yıl Sonra Türklük Bilimi ve 21. Yüzyıl konulu 3. Uluslararası Türkiyat Araştırmaları Sempozyum*, 523-530, 2011年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
 16. 菅原 睦, 「ナヴァーイー作品の3種の翻訳について」, 『イスラム世界』77号, 67-77, 2011年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
 17. 菅原 睦, 「前古典期チャガタイ語文学における翻訳・翻案」, 『ペルシア語文化圏研究の最前線』(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所), 31-59, 2011年, 査読有り, DOIコード無し,
<http://hdl.handle.net/10108/70712>
 18. Sugahara, Mutsumi, “Kutadgu Bilig'in Herat (Viyana) nüshası ve XV. yüzyıl Türk dili”, *Doğumunun 990. Yılında Yusuf Has Hacib ve Eseri Kutadgu Bilig Bildirileri*, 26-27, Ekim 2009, 471-478, 2011年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
 19. Kuribayashi, Yuu, “Turkological studies in Japan: Past and Present”, *Orhon Yazıtlarının Bulunuşundan 120 Yıl Sonra Türklük Bilimi ve 21. Yüzyıl konulu 3. Uluslararası Türkiyat Araştırmaları Sempozyumu*, 523-530, 2011年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
 20. 久保智之, 「満洲語—話し言葉・書き言葉とその使い手—」, 『東アジア世界の交流と変容』(九州大学出版会), 215-229, 2010年, 査読無し, DOIコード及びURL無し.
 21. Shogaito, Masahiro, “A Chinese Agama text written in Uighur Script”, *Trans-Turkic Studies. Festschrift in Honour of Marcel Erdal*, 67-77, 2010年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
 22. 栗林 裕, 「トルコ語の自動詞と他動詞」『自動詞・他動詞の対照』(くろしお出版), 69-90, 2010年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
 23. 菅原 睦, 「トルコ語のアスペクト (特集「アスペクト」のためのデータ)」『語学研究所論集』(東京外国語大学) 15, 330-337, 2010年, 査読無し, DOIコード無し,
<http://hdl.handle.net/10108/63863>
 24. 林 徹, 「指示詞の選択から見たイスタンブルとベルリンのトルコ語」, 『東京大学言語学論集』29号, 17-28, 2010年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
 25. 栗林 均, 斯欽巴図, 「トド文字一百条」と『三合語録』のモンゴル語の対応』『東北アジア研究』14号, 189-225, 2010年, 査読有り, DOIコード無し,
<http://hdl.handle.net/10097/48287>
 26. 藤代 節, 「食べるもの・飲むもの (ヤクト語)」『ヴェスタ』冬号 (特集「世界の食を言語する」), 6-7, 2010年, 査読無し, DOIコード及びURL無し.
 27. 栗林 裕, 「トルコ語の自動詞と他動詞」, 『自動詞・他動詞の対照』(くろしお出版), 69-90, 2010年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
 28. 久保智之, 「リレー連載 私のフィールドノートから 第32回「シベ語」」, 『月刊言語』38-8号, 88-93, 2009年, 査読無し, DOIコード及びURL無し.
 29. Shogaito, Masahiro, “The *Fanwangjing* 梵網經 (*Brahmajala-sutra*): A Chinese text transcribed in the Uighur script”, 『突厥語文学研究—耿世民教授八十華誕記念文集—』(中央民族大学出版社), 426-434, 2009年,

査読無し, DOI コード及び URL 無し.

30. 庄垣内 正弘, 「ロシア所蔵のウイグル文『入阿毘達磨論』注釋書斷片」, 『チュルク諸語における固有と外来に関する総合的調査研究』(CSEL 15号), 81-118, 2009年, 査読有り, DOI コード及び URL 無し.
31. 林 徹, 「トルコ語指示詞の選択における話者の判断のばらつき」, 『東京大学言語学論集』28号, 267-282, 2009年, 査読有り, DOI コード及び URL 無し.
32. Hayasi, Tooru, “Nativization in the phonology of Chinese loanwords into Modern Uyghur”, *Essays on Turkish Linguistics: Proceedings of the Fourteenth International Conference on Turkish Linguistics, August 6-8, 2008*, 393-401, 2009年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
33. Kuribayashi, Yuu, “Contact induced changes in southwestern Turkic”, *Essays on Turkish Linguistics: Proceedings of the Fourteenth International Conference on Turkish Linguistics, August 6-8, 2008*, 413-420, 2009年, 査読有り, DOIコード及びURL無し.
34. 菅原 睦, 「中央アジアにおけるチュルク語文学の発展とペルシア語」, 『ペルシア語が結んだ世界—もうひとつのユーラシア史』(北海道大学出版会)の第4章, 2009年, 131-146, 査読無し, DOIコード及びURL無し.

[学会発表] (計 32 件)

1. 藤家 洋昭, Reyihan Pataer, 「ウイグル語における補助動詞 "tur-" と本動詞の組み合わせ」, 言語処理学会第 18 回年次大会, 2012 年 3 月 16 日, 広島市立大学.
2. 菅原 睦, 「中期チュルク語の接尾辞 -ki について」, ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会, 2012 年 2 月 19 日, 長崎外国語大学.
3. 久保智之, 「シベ語の『田野歌 tala=i ucuN』の韻律 (meter)」, ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会, 2012 年 2 月 18 日, 長崎外国語大学.
4. 大崎紀子, 「チュルク語の非人称表現についての覚書」, ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会, 2012 年 2 月 18 日, 長崎外国語大学.
5. 栗林 裕, 「日本語とトルコ語の複合動詞の対照」, 国立国語研究所 日本語レキシコン共同研究プロジェクト, 2011 年 12 月 24 日, 関西学院大学梅田キャンパス.
6. Kuribayashi, Y., “Transitivity in Turkish”, International Workshop “Transitivity and its related phenomena” (ILCAA Joint Research Project “Comparative Study on the Languages of the North from Typological Studies”), 2011 年 12 月 2-4 日, Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.
7. 栗林 均, 「近代蒙古語詞典の発展と演変」, 第二屆双辺蒙古民俗民間文化學術研究会, 2011 年 11 月 4 日, 中央民族大学 (中国).
8. 栗林 裕, 「トルコ語の他動性」, 国立国語研究所共同研究プロジェクト「述語構造の意味範疇の普遍性と多様性」, 2011 年 6 月 4 日, 国立民族学博物館.
9. 藤家 洋昭, Reyihan Pataer, 「ウイグル語における再帰代名詞の人称」, 言語処理学会第17回年次大会, 2011年3月9日, 豊橋技術科学大学.
10. 久保智之, 「シベ語のイントネーション」, ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「アジア言語の研究—最新の報告—」, 2011 年 2 月 19 日, 京都大学文学研究科付属ユーラシア文化研究センター.
11. 庄垣内 正弘, 「敦煌出土漢文に付せられた音注漢字とウイグル漢字音」, ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「アジア言語の研究—最新の報告—」, 2011 年 2 月 19 日, 京都大学文学研究科付属ユーラシア文化研究センター.
12. 藤代 節, 「ロシア語ピジンとヤクート語ピジンについての予備的考察」, ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「アジア言語の研究—最新の報告—」, 2011 年 2 月 19 日, 京都大学文学研究科付属ユーラシア文化研究センター.
13. 栗林 裕, 「トルコ語の語彙の意味と構文の意味」, ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「アジア言語の研究—最新の報告—」, 2011年2月19日, 京都大学文学研究科付属ユーラシア文化研究センター.
14. 菅原 睦, 『『神秘の宝庫』ウイグル文字写本 (ベルリン国立図書館 Ms.orient.oct.358) について』, ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「アジア言語の研究—最新の報告—」, 2011年2月19日, 京都大学文学研究科付属ユーラシア文化研究センター.
15. 大崎紀子, 「『元朝秘史』における中期モンゴル語動詞の複数性に関する一考察」, ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「アジア言語の研究—最新の報告—」, 2011 年 2 月 19 日, 京都大学文学研究科付属ユーラシア文化研究センター.
16. 栗林 均, 「清文鑑から『蒙文総彙』へ—近代モンゴル語辞典の成立過程—」, 国際ワークショップ「モンゴル語の辞書」, 2011 年 2 月 11 日-12 日, 東北大学・東北アジア研究センター.
17. Shogaito, Masahiro, “How deeply Inherited Uighur pronunciation of Chinese (IUPC) rooted in Uighur?”, First International Conference on Ancient Manuscripts and

- Literatures of the Minorities in China, 2010年10月22日, 中央民族大学(中国)。
18. 栗林 均, 「『御制滿珠蒙古漢字三合切音清文鑑』中以漢字轉寫的蒙古語特征」, 首屆中國少數民族古籍文獻國際學術研討會, 2010年10月20日-22日, 中央民族大学(中国)。
 19. Kuribayashi, Y., “Japonya’daki Türkoloji Araştırmalarının Geçmiş, Bugünü ve Yeni Arayışları”, Dil Bayramı (ことばのフェスティバル). 2010年9月26日-27日, トルコ言語協会(トルコ)。
 20. 栗林 裕「チュルク語の関係節化と他動性」, 第2回「北方諸言語の類型論的比較研究」研究会, 2010年9月8日, 東京外国語大学本郷サテライト。
 21. Hayasi, Tooru, “Indigenous and foreign properties in copied constituents”, The 43rd Annual Meeting of the Societas Linguistica Europaea, 2010年9月2日-5日, Vilnius University (リトアニア)。
 22. Hayasi, Tooru, “Variability in linguistic judgment: An analysis of a questionnaire survey data on the usage of Turkish demonstratives carried out in Istanbul and Berlin”, 15th International Conference on Turkish Linguistics, 2010年8月20日-22日, University of Szeged (ハンガリー)。
 23. Kuribayashi, Y., “Grammaticalized topic in Kashkay: Implication for relativization of Turkic languages”, International Conference on Turkish Linguistics 2010, 2010年8月21日, University of Szeged (ハンガリー)。
 24. 栗林 裕, 「日本語とトルコ語のレキシコンの対照」, 日本語レキシコン共同研究プロジェクト, 2010年7月11日, 国立国語研究所。
 25. 藤代 節, 「ドルガン語の形成—ルイチコフ極北語彙調査資料に基づく考察—」, 京都大学言語学懇話会, 2010年7月10日, 京大会館。
 26. Kuribayashi, Y., “Turkological studies in Japan: Past and Present”, Orhon Yazıtlarının Bulunuşundan 120 Yıl Sonra Türklük Bilimi ve 21. Yüzyıl konulu 3. Uluslararası Türkiyat Araştırmaları Sempozyumu, 2010年5月26日-29日, Hacettepe University (トルコ)。
 27. 栗林 裕, 「チュルク語動詞の形態的派生関係」, ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「アジア言語の研究—最新の報告—」, 2010年2月13日, 京都大学。
 28. 大崎紀子, 「動詞の自他: チュルク語の場合」, ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「アジア言語の研究—最新の報告—」, 2010年2月13日, 京都大学。
 29. 栗林 裕, 「膠着的言語における外来語要素の受容」 「補助動詞を用いた語形成」, 国立国語研究所プロジェクト打ち合せ会, 2009年12月22日, 新大阪ガーデンパレス。
 30. 菅原 睦, 「中期チュルク語語彙論の展望」, 第63回羽田記念館定例講演会, 2009年11月14日, 京都大学。
 31. Sugahara, Mutsumi, “Kutadgu Bilig’in Herat (Vişana) Nüshası ve XV. Yüzyıl Türk Dili”, Uluslararası Sempozyum. Doğumunun 990. yılında Yusuf Has Hacıp ve Eseri Kutadgu Bilig, 2009年10月26日, イスタンブール大学(トルコ)。
 32. 栗林 均, 「モンゴル語資料としての『清文鑑』」, 日本モンゴル学会, 2009年5月16日, 東北大学。
- [図書] (計13件)
1. 栗林 均, 『「元朝秘史」傍訳漢語索引』, 東北大学・東北アジア研究センター, 2012年, 582。
 2. 久保智之, 児倉徳和, 庄声, 『シベ語の基礎(2011年度言語研修テキスト1)』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2011年, 162 + vi。
 3. 久保智之, 児倉徳和, 庄声, 『シベ語語彙集(2011年度言語研修テキスト2)』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2011年, 90。
 4. 栗林 均, 『「達斡爾語詞彙」蒙古文語索引附: 満洲文語索引』, 東北大学・東北アジア研究センター, 2011年, 300。
 5. 栗林 裕, 『チュルク語南西グループの構造と記述—トルコ語の語形成と周辺言語の言語接触—』, くろしお出版, 2010年, 349。
 6. 久保智之, 『フィロロジーの射程』中の「満洲文字を読む」, 九州大学文学部, 2010年, 69-84。
 7. 栗林 均, 『「蒙文総彙」—モンゴル語ローマ字転写配列』, 東北大学・東北アジア研究センター, 2010年, vi+592。
 8. 久保智之, 『事典世界のことば141』中の「シベ語」, 大修館書店, 2009年, 20-23。
 9. 林 徹, 『事典世界のことば141』中の「ウイグル語」, 大修館書店, 2009年, 232-235。
 10. 林 徹, 『事典世界のことば141』中の「トルコ語」, 大修館書店, 2009年, 264-267。
 11. 藤代 節, 『事典世界のことば141』中の「ヤクート語/ドルガン語」, 大修館書店, 2009年, 64-67。
 12. 藤家洋昭, 『事典世界のことば141』中の「カザフ語」, 大修館書店, 2009年, 240-243。
 13. 大崎紀子, 『事典世界のことば141』中の「キルギス語」, 大修館書店, 2009年, 244-247。

6. 研究組織

(1)研究代表者

久保 智之 (KUBO TOMOYUKI)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号：30124993

(2)研究分担者

庄垣内 正弘 (SHOGAITO MASAHIRO)

京都産業大学・文化学部・客員教授
研究者番号：60025088

林 徹 (HAYASI TOORU)

東京大学・人文社会系研究科・教授
研究者番号：20173015

栗林 均 (KURIBAYASHI HITOSHI)

東北大学・東北アジア研究センター・教授
研究者番号：30153381

藤代 節 (FUJISHIRO SETSU)

神戸市看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：30249940

栗林 裕 (KURIBAYASHI YUU)

岡山大学・社会文化科学研究科・教授
研究者番号：30243447

藤家 洋昭 (FUZIIH HIROAKI)

大阪大学・世界言語センター・准教授
研究者番号：90283837

菅原 睦 (SUGAHARA MUTSUMI)

東京外国語大学・総合国際学研究院・准教授
研究者番号：50272612

大崎 紀子 (OOSAKI NORIKO)

京都大学・文学研究科・事務補佐
研究者番号：90419458